

2007 年度

科目名 心理学実験 A	対象学科・学年 人間人社2回生	担当者 田沢 晶子
授業テーマ 「心」を科学的に捉える。		
授業の概要と目標 さまざまな心理学基礎実験を通して、心理学における基本的な実験の方法、実験の進め方、結果の処理及び結果の記述の仕方などを学習する。「心」を科学的に捉えることが目標である。受講者は互いに実験者および被験者になる。また一般の学生にも被験者になってもらい実験を行う。		
評価方法 各課題について提出するレポート（80%）＋ 出席状況（20%） 授業へ取り組む姿勢、理解への意欲度、仲間への貢献度も考慮します。		
テキスト 実験とテスト＝心理学の基礎（実習編）	著者 心理実験指導研究会	出版社 培風館
参考書 実験とテスト＝心理学の基礎（解説編）	著者 心理実験指導研究会	出版社 培風館
授業スケジュール・内容 3－4名をひとつの班とする。班として各実験課題に取り組み、各自でレポートを作成し、結果を発表する。 1つの実験課題は、3週間に1つの割合で実験を行い、レポートを作成・提出（4週目）する。 1週目 実験の概要と背景の説明、実験上の注意点説明、仲間内での練習試行など 2週目 実験データの収集、集計・分析方法の指導 3週目 結果分析、レポートへのまとめの指導 4週目 次の実験の概要説明、実験上の注意点説明、仲間内での練習試行など （同時に、各自が作成した前回実験のレポートを提出する） - 各実験課題は、次の通りである。 （1）ミューラーリヤの錯視 ミューラーリヤの錯視図を用い、調整法によって錯視量を測定する。さらに錯視を規定する要因を考察する。 （2）触2点閾 ①極限法を適用し、身体のいくつかの部位での触2点閾を測定する。 ②閾値の変動について、信号検出理論を考える。 （3）重さの弁別閾 恒常法によって重さの弁別閾を測定する。恒常法の手続きと「閾」の定義を理解する。 （4）両側性転移 鏡映描写器を用いた、鏡映描写学習（利き手→非利き手→利き手など）から、転移の現象の有無を考察する。 【受講の条件】 1回生配当の「統計学AおよびB」また「心理学研究法」を履修済みであること。 もしくはこれらの科目を同時に受講していること。 【人数制限】 実験器具の数に限りがあるため、受講定員を40名とします。心理・カウンセリングコースの学生を優先し、人数に余裕があれば、他のコースの学生も受け入れます。希望者が定員をオーバーする場合は、抽選します。<u>受講希望者は、第1回目の授業に必ず出てください。その場で抽選します。1回目の授業を連絡なく欠席した場合は、後で希望しても履修登録はできません。</u>		